

三河港



愛知県建設局港湾課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸3-1-2

☎052-954-6562

URL : <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kowan/>

1. 概況

渥美半島と知多半島に抱かれた三河湾は、気候と海象に恵まれ、海面は穏やかでこの風景の良さゆえ、国定公園に指定されている。三河湾の東奥に位置する東三河地域では、古くから水の豊かな豊川を利用した水運と共に海運も盛んで、沿岸には人々の暮らしと固く結ばれた港がいくつかあった。特に、豊川河口部に港が発達し、港内はもちろん伊勢鳥羽にも航路が開設され、遠く東京や大阪とも物資の交流が行われていた。

三河港は、昭和37年5月に西浦、蒲郡、豊橋及び田原の4港を包含して、県管理港「三河港」として誕生し、三河港がある東三河地域は、工業整備特別地域の指定を受けて、港湾機能の整備拡充、工業用地の形成、拠点都市の育成の3点を掲げた整備計画が策定され、昭和39年、三河港は県下3番目の重要港湾に指定された。

臨海部には、製造所や造船所などの重工業、自動車などの輸送機械の加工組立てを中心とした、製造業が集積し、これらの工場に隣接して、3PL企業も立地している。また、東三河のみならず、西三河、三遠南信の企業にとって原材料や製品の物流拠点ともなっている。

三河港には、完成自動車の輸出が盛んな蒲郡地区、国内有数の規模を誇る「豊田自動織機海陽ヨットハーバー」や「ラゲーナテンボス」といった県内有数の観光拠点となっている大塚地区、新たな産業拠点として工業用地や公共岸壁が整備されている御津地区、完成自動車などを取り扱う公共岸壁が集積した物流拠点となっている神野地区、自動車や化学関連企業が集積する企業団地が形成されている明海地区、国内最大規模のトヨタ自動車(株)田原工場や国内電炉メーカー最大手の東京製鐵が立地する田原地区などがある。

港湾取扱の貿易額は令和元年実績で3兆3,691億円であり、全国9位となっている。主要な取扱貨物としては、輸出では臨海部や背後圏に立地した自動車工場から出荷する完成自動車大きな割合を占めており、輸入では完成自動車と非金属鉱物、鋼材などが多くなっている。内貿については、完成自動車や鉄鋼、鋼材などの移出と、完成自動車や鉄鋼、セメントなどの移入がある。

このように三河港では、完成自動車の貿易量はたいへん多く、フォルクスワーゲン、アウディ、フィアット、ボルボ、メルセデス・ベンツなど輸入自動車や、トヨタ、スズキ、三

菱などの輸出自動車の海上輸送拠点となっており、輸入については、金額、台数ともに平成5年から27年連続全国1位であり、輸出についても、令和元年の実績で、金額、台数ともに名古屋港に次ぐ全国第2位である。また、輸入された自動車を国内各地に海送したり、全国各地で生産された自動車から三河港に集約して輸出するなど、完成自動車の海上輸送ネットワークにおいてハブ的な役割を担っており、「完成自動車の国際海上輸送のハブ港」を目指した取り組みが進められている。

コンテナ貨物は、平成10年11月、神野地区に三河港豊橋コンテナターミナルが供用開始し、平成20年4月には2基目のガントリークレーンが稼働しており、令和元年の取扱量は約3万5千TEUとなっており、近年では4万TEU前後で推移している。

また、港内には、干潟・浅場が存在し、自然豊かな港湾であることから、海洋性レクリエーション施設の整備や人工海浜の造成など、環境との共生に向けた取り組みが進められている。

今後は背後圏の流通拠点港湾として、物流需要の増大、輸送革新の進展に対応する物流機能の強化を進めていくとともに、防災の観点からも、大規模地震対策について一層の推進を図ることとしている。